

広報たしる

田代町総務課編集 毎月5日 1800部発行

与論町との姉妹 盟約特集号

昭和44年8月203号



（姉妹町盟約書の交換を行う、与論、田代の両町長）

後方は立あいの南園収入役

本年五月中旬、大島郡与論町からかねて建築中の農村振興センターの落成式を六月六日に挙行するのでその式典に招待する旨の案内をうけました。

早速議会の全員協議会を開きいろいろ協議の結果、単に式典に参列するのみでなく、此の際両町の間で姉妹町の盟約を結び今後両町の間に文化的、精神的あるいは経済的な交友関係を打ち立てることをきめ、議会の町長、収入役、西野技術員の一行一四名が与論島を訪れることをきめました。

御承知のとおり本町の副議長の町清之進氏、教育委員の伊藤佐江吉氏は盤山部落の出身であり、盤山部落は与論島出身者が開拓された部落であります。今回招待をうけた、理由の一つに戦後二〇年にわた

町長 原 順

与論町に招かれて

って、田代町が盤山部落発展のために色々と施策を講じたことに対するお礼を申し上げたいということがふくまれていました。

日本が大東亜戦争に敗れ幾多の海外同胞が祖国日本に引き上げて参りました。与論町というところは面積が田代町の四分の一より少し大きい島で台風、早魃など自然条件のきびしい所でしたので戦前の与論町には島外への移民の歴史が多くあります。

鹿兒島から563軒
面積2082平方軒
（田代町の約4分の1）
海から最も高いところ97.2m



田代町議会
議長 押川熊次郎

大満州建国はなやかな頃
宴席等では必ずと云ってよい位次のような歌が盛んに唱われ大いに氣勢をあげたものであった。

即ち
一、生れ故郷を後にして俺も
はるばるやって来た。
蘭の花咲く満洲で男一匹
腕だめし
二、金もなければ地位もない
生れついでに丸裸
持った度胸が財産さ
やるぞ見てくれ此意気を
三、赤い夕陽に土の香に燃る
希望があればこそ
なんの苦労も青天井
じつと万里の空を見る
蘭は満洲の国花でその頃
日満一体「断金如蘭の交」と云う言葉が対満外交の国是であった。

満洲開拓の構想はかつて小磯閣東軍参謀長(後の陸軍大将総理大臣)が樹立したもので北満一、七〇〇万町歩の未開原野に一戸一〇町歩日系開拓民一〇〇万戸入植が目標であったと云われていた。

東篠内閣は大東亜戦争に

風の中を茶花港岸壁にハシケで上陸しました。町長はじめ多数の方々が雨の中に盛大な出迎えをしていた。きました。翌六日、鉄筋二階建の農村振興センターの落成式が挙行されました。センターは中央公民館と言えは理解できましよう。中に図書室、青年のための農業研修施設、実験施設、婦人のための料理講習用キッチン等が整備された近代的な建物です。その式典の中で特に田代町への感謝状が贈られ、私はお礼の挨拶の中で盤山の今日迄の苦勞を私の当時見たままを話しましたが、参列者の中で涙ながらに聴いておられる人々もあり私も思はず声もつまり勝ちになるという感激的な一瞬もありました。

翌七日はいよいよ茶花小学校講堂において姉妹町の盟約式を行いました。役場から学校まで約三〇〇米をパレードを行い講堂に入りました。講堂入口には田代から贈った茶が町民に披露され、接待されていました。場内は老若男女五〇〇人以上の人々が詰めかけており、その中でそれぞれ町長が交互に盟約文に署名捺印し、相互に理解を深め

盤山開拓団の素顔

田代町議会

議長

押川熊次郎

よる食糧補給の基地として急に錦州省盤山地区の開拓を立案して三二、四〇〇町歩アルカリ地帯の開田に着手した。

終戦当時盤山には日系二三、〇〇〇戸、朝鮮系六〇〇戸の入植者が、定着して居たと云はれていた。

我が盤山開拓団は、この

国策に順応大陸雄飛を決意して昭和十八年十月迄に前後四回に分散して計一四五戸、六三〇人が郷土の全財産を処分して勇躍渡満の途に就いたのであった。

然るに雄国空しく遂に敗戦となり、本国引揚の止むなきに至ったのであるが、その間の悪戦苦斗と困乱は筆舌に尽し難く、いわゆる四面楚歌の間、現地で実に五十六名もの犠牲者を出したことから判断しても、如何にその凄惨と惨状が深刻且残酷であったかが想像されよう。

斯くして衣、食、住、職、共に失った一行は、命からがら故国に引揚げたのであったが、田代村への入植者

は、昭和二十一年七月十八日、五十三戸、二六八人で構成せられ、これは主として、渡満当時の本隊主流派であったようだ。

田代村現地は、標高四五〇米の山間人跡、稀の僻地で、道路とて無く兎の道をはい登り僅かに、天幕二張の中に、地面に木の枝葉を敷き詰め、土用風雨の最中に、野宿すること実に、四ヶ月、その間食糧配給は、ずっと鹿児島市からであった。

ところが当時の田代村は、他に復員、一般引揚者も多く、さなきだに、不足していた食糧事情に、一層拍車を加えて、益々深刻化したので村政に対する非難は、喧々ごうごうで「盤山開拓者の入植を認めたことは、村政将来の痛になる」と当局を攻撃する向きも、多かった。

あれから今日迄、実に二十三年間の臥薪嘗膽であった。

当時餓死寸前、全く放心虚

脱の状態に陥り、草根木皮も、喰い尽してからうじて露命をつないだ開拓団は、一戸平均、一町五反歩の未墾地を、一致団結して、夜を旦に次ぎ、孜々営々として、荆棘の道を切り開いた。その結果は、見事に、実を結び今日では、食糧供出者も多く、殆んど自給自足し得て、畜牛九〇頭、茶園等造成二十五町歩に及び、現在三十九戸中電話加入者二十三戸、町内の模範部落に躍進して、表彰せらるること数回、前途猶洋々たるものがある。

今やアメリカのフロンティア精神は遂にアポロ11号により、世紀の大偉業たる月世界旅行を成し遂げた。我が親愛なる入植者は、その名も、床しき、盤山開拓団と命名して、過ぎし大陸の苦難を永遠に、偲び益々開拓精神を発揮して、所期の目的を達成せんと、しつつある。

茲に特筆すべきことは、盤山入植者が、益々活躍発展することによって、その母町と論と、田代町が去る六月七日、姉妹の盟約を結んだことである。

我等両町民は、正に血縁のつながりで、名実共に、兄弟姉妹の関係を立つことになった。

このときに当り盟約を記念して、盤山開拓団の、素顔の一端を、えがき、併せて、両町の弥栄を、心から祈念して、祝賀の言葉に代える次第である。



優雅なあまみおどり

脱の状態に陥り、草根木皮も、喰い尽してからうじて露命をつないだ開拓団は、一戸平均、一町五反歩の未墾地を、一致団結して、夜を旦に次ぎ、孜々営々として、荆棘の道を切り開いた。その結果は、見事に、実を結び今日では、食糧供出者も多く、殆んど自給自足し得て、畜牛九〇頭、茶園等造成二十五町歩に及び、現在三十九戸中電話加入者二十三戸、町内の模範部落に躍進して、表彰せらるること数回、前途猶洋々たるものがある。

今やアメリカのフロンティア精神は遂にアポロ11号により、世紀の大偉業たる月世界旅行を成し遂げた。我が親愛なる入植者は、その名も、床しき、盤山開拓団と命名して、過ぎし大陸の苦難を永遠に、偲び益々開拓精神を発揮して、所期の目的を達成せんと、しつつある。

茲に特筆すべきことは、盤山入植者が、益々活躍発展することによって、その母町と論と、田代町が去る六月七日、姉妹の盟約を結んだことである。

我等両町民は、正に血縁のつながりで、名実共に、兄弟姉妹の関係を立つことになった。

このときに当り盟約を記念して、盤山開拓団の、素顔の一端を、えがき、併せて、両町の弥栄を、心から祈念して、祝賀の言葉に代える次第である。



新築の農村センター



ゆるぎない友情をちかい今後における教育文化、経済交流を深めることを定めました。

そもそも与論町と田代町は海上五〇〇kmをへだて、一方は四方を海にかこまれた島、一方は四方を山にかこまれた山村でその歴史、環境、人情、風俗、文化それぞれ異っており、しかしながら同じ県民であり更にまた与論町出身者が立

派に根をおろし、田代茶業の確立の先頭に立っていることは我々町民が忘れてはならないことです。

姉妹町の約を結んだ今後は本町の経済(茶や木材)文化交流をはじめ、学校の児童、生徒の作品の交流、先生の交流その外相互の訪問など今後はいろいろやってみたらよいと思います。

私達田代町民はあの南の島の不思議な美しさと、人情の豊さを知り、与論町の方は田代町の深々と生い繁る山のすがたや、木々の美しさを知り両々まっって、日本民族の祖先のすがたを想像することはまことにたのしい有益なことだと思います。

ともすれば今日の世想は経済重視になり勝です。今回の盟約では経済的な利益を期待することは余り意味はないと考えますが、人間本来のよきすがた、人間の善意を確認することが今日の世想からみて大切なことだと思っています。

私も本島のひのきを持参し農村振興センターに記念植樹しました。

私達の友好の精神があひのきと共に活著し生長することを念じております。

と共に鹿児島へ引揚げられましたが、当時の与論島はアメリカ軍の占領下にあったが昭和二十一年に田代町稲尾山麓に入植されたのであります。

文字どおり裸一貫、着るもの、食べるものもない無一物の入植でした。私は当時農地委員長としてその惨情を直接見ておりますが、それから二二年今日の盤山は茶と養蚕、畜産を主とした営農状態で百万以上の収入をあげる農家が続々出て来ています。

まことに今昔の感にたえません。

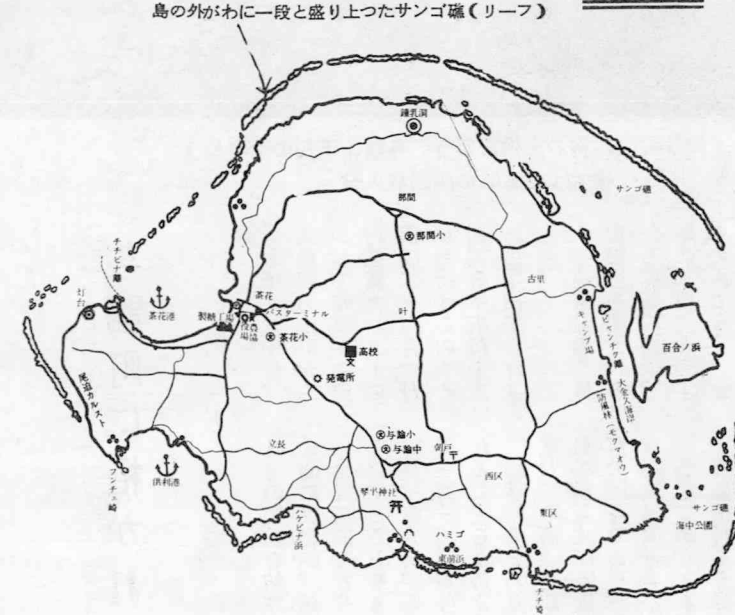
私達は同じ日本人として同じ田代町民としても早く立直ってほしいと考え、ほんの少しばかり手伝いをしただけにすぎません。

盤山の今日はすべて盤山の人達の血と涙と汗の結晶であると思います。

そのわずかばかりの手伝いに對するお礼を是非与論町で申し上げたいというこ

と云うわけで、折悪しく其の頃与論島一帯は梅雨時季で雨と

与論町略図



ゆるぎない友情をちかい今後における教育文化、経済交流を深めることを定めました。

そもそも与論町と田代町は海上五〇〇kmをへだて、一方は四方を海にかこまれた島、一方は四方を山にかこまれた山村でその歴史、環境、人情、風俗、文化それぞれ異っており、しかしながら同じ県民であり更にまた与論町出身者が立

私も入植して、今年で二十三年目を迎えます、当時のことを今になって考えますとき、我ながらよくもたえたものだと思致します、如何におちぶれたとはいふものの、人間として生活するのに衣食住の要素が最少限度でも必要だとは分りながら、当時の私どもにとつては其の中何一つとして、めどがつかないままに只働く場所を求め、文字通り裸一貫で頼りになるのは一人一人の健康と堅忍不拔の開拓魂とでも言いますか、生きる為には如何なる苦しみにも堪えて行かねばという覚悟が出来ていただけだったと思います、そのような引揚者大世帯の入植希望を当時の田代村当局が認め下さいましたお陰と、この間の国県はもとより、歴代町当局の適切な御指導御援助更には全町民皆様の暖かい御協力をたまわり、おかげさまで現今ようやく国民として最低生活が出来

姉妹町盟約に感謝す

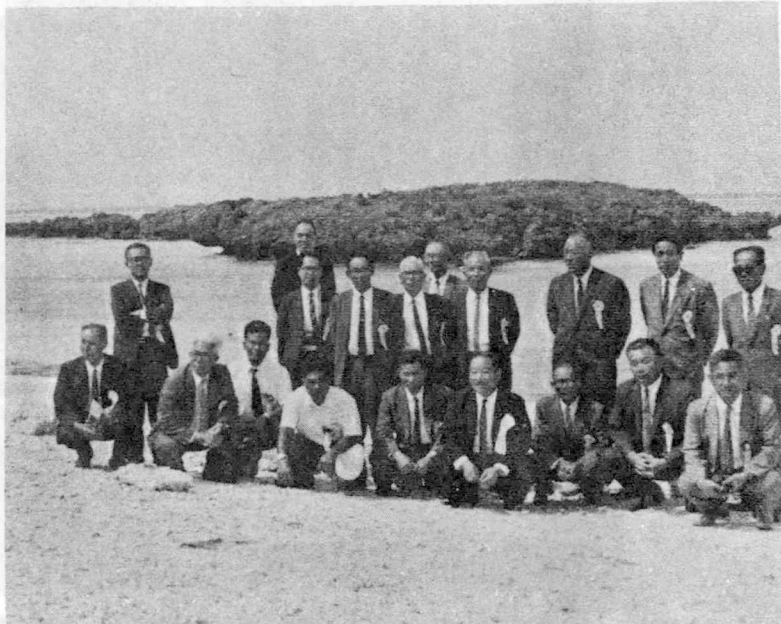
田代町 議長

副議長 町 清之進

ることになり、亦将来の営農基盤も確立されて参りつつあります、私ども部落民一同心から感謝申し上げる次第であります、郷里と論町では以前から適当な機会に田代町長、議会の方々に御案内し、入植者達にお寄せ下さる日頃のご厚意に感謝の意を表し度いとの計画がされている旨を承知していた次第ですが、この度農村振興センター落成を機会に招待が参ったのであります、いよいよ六月四日田代町長外一行十四人田代を出発して同日離島航路で鹿児島港出発五日夕方六時半与論港着の予定が折からの梅雨期と突風にあい、航海途中より大しけとなり予定時刻二時間以上を伸びる、悪天候のつらい旅行となつた、初めて経験される一行の皆様が離島への船よいでどんなにかいやな感じをしたと思ひ何とも申し訳ない気持ちで一杯でしたが、それにしても幸に全員無事上

陸したときは、この上ない喜びを感じた、与論滞在僅か三日間に各種行事町内見学等がなされたが、其の行事中遠慮の思い出として有難く思ったことは田代町の提案により、姉妹町盟約式が盛大に行はれ、将来これを機会にして田代町と

友情を深めて下さることを力強く感じるのであります、更に私が感心したのは与論島にもあれ程素晴らしい、県立の高校が建設されてあったことでした、校舎は鉄筋コンクリート二階建の六教室、特別教室等内容設備も完備しつゝあるとの話でした、其の学校で学ぶ生徒諸君の



美しい与論町の海岸で記念撮影の使節団一行

両町の人口の動き 44年4月調

年度別	与 論 町		田 代 町	
	世帯数	人口	世帯数	人口
35年	1635	7792	1641	7486
40年	1596	7181	1603	6787
44年	1643	7254	1536	5931

与論町は約10年間に538人の減少、田代町は1555人の減少で、田代町の人口流出の激しさがうかがわれます。



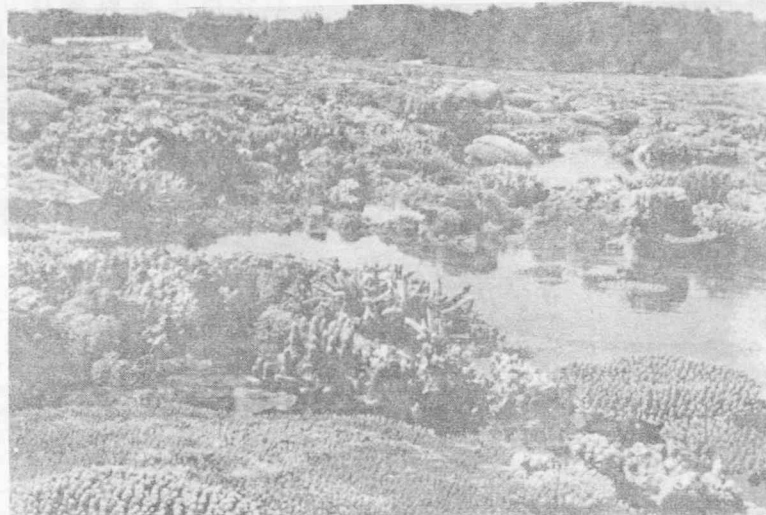
大島紬と高倉

姉妹町与論町を訪ねて

農業協同組合長

門前 信好

六月六日与論町長より、農村振興センターの落成式に案内をうけ一行一四名がこれに参加しました、合せて翌七日は与論町と田代町との姉妹町として盟約が結ば



潮が引いて美しいサンゴ礁の花園が見える海岸

内の見学をさせていただきました、それでは与論町とはどんな町か私の見た目で町民の皆様は御報告申し上げたいと思います、与論町は本町盤山部落民の故郷であることは皆様の御承知のとおりであります、沖縄を鼻の間に現る現時点においては国境線にあり日本最南端の島であり珊瑚礁からなる二十平方メートルの島であり島の周囲約一軒ぐらゐは珊瑚礁そのものでありその外壁に一段高い処があり、リーフと呼んでおります、このリーフで大海の荒波はうけ止められ、このリーフから外は深海で、内側は干潮の場合ほとんど珊瑚礁が露出してきれいなんです、花園が全面的に見られます、満潮時には全海面海中に没し一面南国の太陽に照され、青白色と申しましようか、言葉で言い尽せないきれいな海面となります、リーフ以内はいつでも波静かにして熱帯魚が往行しています、伊勢エビの時期になれば小船を二人で押して右手に手袋をしてエビのつかみどり船に入りきれないほど取れると説明されました、

人口は戦後の最高、昭和二五年に八四八三人現在では七二五四人で田代町では昭和二八年に八千人を少し越した程度で現在では五千七百人ぐらゐとなつております、特に二十才台が五七〇人、三十才台が一千人もいるということであり、如何に与論町の経済が豊であるかということがわかります、主なる産業を述べる前に気象状況を調査してみますと年間の平均気温二十二度余り、最高気温が七月で三十度七分最低が二月で一一度三分とまことに住みよい島であります、水田面積は台帳では二七八町でありますが現在ではほとんど畑地化され水稲面積わずかに八町歩で大部分が砂とうきび畑であります、きび代金年間二億六千五百万円に外に運賃として二千万円が工場側から支払はれております、甘藷は収かくを早目にしなるとアリモドキゾウ虫にやられるそうです、輸送園芸として四〇町歩があります、南瓜が十二月から三月頃までの出荷で一個六〇〇円ぐらゐで取引されているというのであります、反収にして良い年は四十万円ぐ

らい、次にサトイモが年間いつでも出せるが二月、三月頃が最も値段が高く郵便で東京方面の市場に出しても引合ふとのことであります、以上のべました園芸は施設園芸ではなく露地栽培であります、次に最も多いのが大島紬であります年間一万疋(二万反)の織り上げが各家内工業で行われております、一反二万円の織り賃とすれば年間四億円ということになるようであります、次に肉用牛が一千二百頭余りで生産が行われております、今後はさらにこの気象条件を生かした園芸と観光事業で益々発展することを考えさせられました、熱帯性植物としてバナナあり、パイアあり、ガジュマルあり、限りなき発展を期待して止みません、

両町の社会文化								
	公 民 館	有線放送	ラ ジ オ	電 話	テ レ ビ	無 線	新 聞	公 営 住 宅
与 論 町	本館部落 1. 9	1	8 3 7	9 9	4 2 7	2	不 明	6 9
田 代 町	1. 3 8	部 落 1 5	不 明	7 7 0	1. 3 5 0	0	9 0 0	5 4

終戦も近い昭和十八年の夏、満洲の北部、錦州省、盤山県の広野に安住と開拓の夢をいだいた、与論町の若者二十名は開拓の鉄をいれた。一戸当りの耕地も一町八反平均で台風や病害の心配もなく働くほどに収かくの上る希望の毎日でした。思いもよらず敗戦にあり着の着のまゝ、しかも現地人やソ連軍の暴書を如何にしてのされるかに一生懸命で女達は全部というは

盤山開拓部落のいまむかし



がつちり根を下した開拓部落

池田福利
と髪を短くして男装をしてやと内地の土を踏みました。二十一年六月(当時すでに家族など合せて式百四十名近くになっていた)鹿兒島市の伊敷引揚収容所に帰還したもの一たん開拓の志を立てた一行は故郷へ帰ろうとはせず、また裸一貫再開発への道を選んだ。すでに飛行場あとやその外の開拓適地は他の開拓団に先取りされたり、また五

三戸という大世帯を受け入れる開拓地はなかなか見当らず最後に田代町というところになりました。私達一行十八名は先遣隊として二十一年七月十七日大根占営林署長に面会、開拓入植の交渉をしました。なかなか承諾を得られず一時心配したこともありまし

幸い大根占町からは田代農協のトラックで麓留所まで送ってもらいましたが、それから重い荷物を背負って鶴戸野部落の小屋に到着。もって来た麦汁をすって一夜を明かしたことは、ついでこの間のように忘れられせん。翌日から大森林に入り早速木をきり開きこんで着手しました。終戦直後のことで既製の田畑や住家をもつていても連日ひもじさをこらえねばならなかったのに着の着のまゝでしかも真夏の太陽の下で伐材、伐根という重労働をしなければならなかった。しかし仕事がつらいと思つたことはなかった。当時毎日までの実、あさみの葉、山カヂの葉を塩煮にしてひもじさをこらえ、栄養失調と戦いながら伐材のあとに一本一本甘藷を植えてゆきました。

たゞいまは、盤山、鶴戸野、南風谷地区と分散して

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。あれから二三年を迎え、当時ぬれぬずみのように婦人は乱髪して全く見えない様にやつて驚く外なかつたのです。私はあいつの中で第一に「与論の誠を忘れるな、誠(まこと)第一でウソを言うな、喝しても盗泉の水を飲むな、ワラ一本、ナワ一切れといえども無断でとらないこと、食事が不足するときは、親は二度であてようし、子もは一度であてようし、好かれる人になれ、昔の朝鮮人のように特別あつかいされはならない、将来は田代の人達と嫁、むこのやり取りをする様になれ」と以上のような希望を申上げて送別の辞を言いました。さいわい皆が良心に

と髪を短くして男装をしてやと内地の土を踏みました。

翌日から大森林に入り早速木をきり開きこんで着手しました。

たゞいまは、盤山、鶴戸野、南風谷地区と分散して

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

あれから二三年を迎え、当時ぬれぬずみのように婦人は乱髪して全く見えない様にやつて驚く外なかつたのです。

与論からお礼

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

もと村長

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

山下平志

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

田代町に鉄を入れて二十

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

余年、何をくつても台風

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

にさらわれ、残っているも

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

のは畑の畦畔茶園だけで

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

した。そこで名茶の産地田

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

代であることから茶を主幹

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

とする農業経営に切替え

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

ました、幸いこれが順調に

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

す、現在では、茶工場も二

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

ヶ所に設け、盤山茶の名声

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

を県内外にまで知られるよ

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

うになりました。

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

私達がこうして田代町民

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

として人並の生活ができる

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

ようになったのは私達の頑

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

張りもあつたでしようが、

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

河よりも町民の皆さんが、

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

よそのものあつかい的なこ

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

ろが全くなくすべてに愛情

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

をもつて見守ってくださっ

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

たからです。

あえず早速入米村から伊敷兵営跡にやってきました。

山から海へ

議会議員

原沢美代二

太陽が、山から出て、山に沈む山の国田代町と、太陽が、海から出て、海に沈む海の国与論町は、日出度く、昭和四十四年六月七日、遠くに共に、幸あれと深く、そして力強く、栄ある姉妹町の盟約が結ばれた。

謹んで、哀心から、祝福申し上げます。

私が、村の農業会に、勤めている頃、時は、昭和二十一年七月十七日午後五時過ぎ、川原にある、営林署の貯木場に、満洲からの、引揚げたと三十名位の男の方、大きな荷物を二個、三個背負い、ズボン一枚で、真黒く陽にやけて汗びっしり休けいされていた。

何処まで行かれるのか聞くと、これから稲尾山へ入植するとの事、まだまだこれから十キロ其の上もあるのに、重い荷物を背負ってとは、早速川原の担当区主事にご相談して、一台のトローリを借りて重荷を積み、皆んなで押して行った。私はその時から、大島郡の与

論島の事を心に秘め、常にあこがれていた。丁度満二十三年あこがれの与論町へ参りました。かねて、いろいろ聞かされていた以上に、四面海に囲まれ、想像以上の海岸全域が、海中公園への、指定を受け、その風景全く云いつくす事も出来ない美しさに、本当に驚きました。

更に又、全町民の皆さんの人情味豊かな姿こそ、全く有難い感激にうたれました。大変遅れましたが、心から謹んで厚くお礼を申し上げます。



与論町の市街地

主要産物の生産状況

	与 論		町		田 代		町	
	作付面積	生産量	生産額	作付面積	生産量	生産額	作付面積	生産額
水 稲	8 ha	28 t		393 ha	843 t	4100 万円		
甘 藷	68 "	1585 "		220	2772 "			
さとうきび	150 "	42184 "	26600 万円	0				
パ ナ ナ	3 "	30 "		0				
輸送園芸	40 "	240 "		0				
大島つむぎ		4 万反		0				
養 蚕	3 "	1 "		23	9 "			
茶	0 "			86	77 "			
た ば こ	0 "			46	113 "			
仔 牛		246 頭	成牛 944 頭		775 頭	成牛 1034 頭		
水 産 業	動力船 96	無動力船 34	従事者 794 人					
林 業	公有林 46 ha	私有林 142 ha		公有林 465 ha	私有林 2095 ha			



30日	29日	28日	27日	25日	24日	22日	21日	20日	19日	18日	17日	15日
移動保健所	国保運営委員会	三才児検診 (25・26日)	土木関係入札(予定)	百日咳予防注射	郡民体育大会(高山町)	教育委員会 (21・22日)	川原老人クラブ 百日咳予防注射	町有林入札	川原青年学級・終戦 記念日	郡青年体育大会(大 根占町)	妊婦検診(18・19日)	お盆・役場臨時休業 川原青年学級・終戦 記念日

行事予定

八月のこよみと



町勢状況

昭和44.8.1現在
世帯数 1,519戸
人口 5,843人
男 2,805人
女 3,037人

あらたに出かせぎを＝ ＝希望される皆さんへ

安定所を通じないで知人や手配師などの口車
にのって、出かせぎに行ったため行方不明にな
ったり就労条件が違ったり、賃金不払などの問
題がおこっております。

◎出かせぎに行くときは、次の「五つの心得」
を守りましょう。

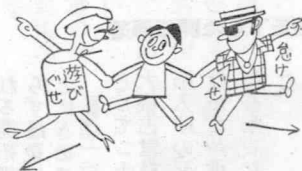
1. 家族と充分話し合うこと。
2. 公共職業安定所か町の出かせぎ相談所で「
出稼労働手帳」をもらうこと。
3. 働く事業所、労働条件をよくたしかめる
こと。
4. 働く時間、場所、宿舎の所在地を家族にし
らしておくこと。
5. 1人2人で行かないで必ずグループで行く
こと。

◎出かせぎに行くときの手続きは、
公共職業安定所か、町の農業委員会へ相談く
ださい。

町民のみなさま

暑中お見舞

申し上げます。

夏休みは
規則正しく

七月の気象

最高気温	31.8	度
最低気温	17.9	度
天気	18	日
雨	10	日
曇	3	日
晴	19	日
雨	56.4	mm
曇	59.7	mm
晴		

豊で平和な与論島

議会議員 南園 忠雄

五泊六日長い旅でした、鹿
児島を南下五六三軒、沖繩
本島に二八軒近巨離といの
う、日本の最南端である与
論島、船旅二七時間といひ
ますから想像していたより
遠い。昔はお伊勢参りを歩
いたとか聞きますがそれよ
りはるかに遠い感じがしま
した。出港は快晴であつた
が徳之島を過ぎた頃から突
風に会い海上十五軒の強風
にしかも外海のためか大荒
れ途中和泊港で渡船のロー
プが二回も切れる大騒ぎい
つ海中に投げ込まれるかと
全く無気味な船旅でした。

船は予定の時間を二時間余
り遅れ与論島には夜の九時
過ぎ入港、ドシャ降りの雨
の中に上陸ができホットし
ました。翌日与論町内を見
学をいたしました、全く天
国とはこんなところかと思
はれる程きれいな数々の景
勝地を案内してもらいまし
た、特にソテツがいたると
ころに自生しています、そ
して海はあくまで青く澄み
きって、サンゴ礁におおわ
れていて、海洋公園として
今後の開発が期待されて
います、与論町は戸数、人
口ともに田代町とほとんど